



ぶらり神戸第11号

令和2年7月

「大難工事 おうご 淡河川山田川疎水工事」

前号をもちまして10回の掲載を達成しました。これも皆さんのおかげと感謝します。今後とも神戸特別支援学校ともどもよろしくお願ひします。

さて、今回は7月を迎えましたので、水に関する「ぶらり」を掲載します。

現在、神戸市北区に隣接する印南野台地（神戸市西区 かんで 神出町の めっこ 雌岡山の山麓から南



御坂サイフォン（三木市）

西に広がり、東の明石川、西の加古川、北の美嚢川に囲まれた台地状の地形）は、穀倉地帯として有名ですが、古代から水不足に悩まれてきました。17世紀後半における加古大池（稲美町）の築造をもってやっと台地への引水が実現しています。

まず、淡河川からの引水事業は、明治21（1888）年約26kmの幹線水路と28カ所の隧道等を含む工事が着工され、明治24（1892）年完成しています。山田川からの引水事業は、明治44（1911）年約10kmの幹線水路と19カ所の隧道工事等を含む工事が着工され、大正8（1919）年に完成しています。

神戸市北区の二つの河川からの水の恵みが明石・三木・加古川・加古郡の地域を潤う役割を果たしていることはすごいことです。